

■ 『ドローンビジネス調査報告書2018【農林水産業編】』目次

- 第1章 農林水産業におけるドローンビジネスの動向
 - 1.1 ドローン活用の背景と期待される役割
 - 1.1.1 ドローン活用の背景
 - 1.1.2 農林水産分野におけるドローンの役割
 - 1.1.3 ドローンの活用で期待される効果
 - 1.2 ドローンの定義と分類
 - 1.2.1 本書で取り扱う「ドローン」の定義
 - 1.2.2 ドローンの分類
 - 1.2.3 民生用（ホビー）と業務用
 - 1.2.4 回転翼と固定翼、VTOL
 - 1.2.5 農林水産分野に活用されるドローンの種類
 - 1.3 農林水産分野におけるドローンのプレイヤー
 - 1.3.1 ハードウェア（機体）
 - 1.3.2 サービス提供企業
 - 1.3.3 ソフトウェア
 - 1.3.4 業界団体
 - 1.4 農林水産業におけるドローンの活用の現状
 - 1.4.1 農薬散布
 - 1.4.2 精密農業
 - 1.4.3 害獣対策
 - 1.4.4 水産業
 - 1.4.5 林業
 - 1.5 ドローンビジネスの市場規模
 - 1.5.1 国内の市場規模
 - 1.5.2 ロードマップ
 - 1.6 政府・各省庁の動き
 - 1.6.1 農林水産省
 - 1.6.2 水産庁
 - 1.6.3 林野庁
 - 1.7 今後の展望
 - 1.7.1 農薬散布ドローンの自動航行
 - 1.7.2 ローバー型（ランド型）ドローンの可能性
 - 1.7.3 ドローンの活用とGAP
 - 1.7.4 Aguriculture4.0 日本は何をしなければならないのか。
- 第2章 分野別の現況と課題
 - 2.1 農薬散布
 - 2.1.1 現況
 - 2.1.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.1.3 ビジネスモデル
 - 2.1.4 主なプレイヤー
 - 2.1.5 ハード
 - 2.1.6 課題
 - 2.1.7 市場成長性
 - 2.2 精密農業
 - 2.2.1 現況
 - 2.2.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.2.3 ビジネスモデル
 - 2.2.4 主なプレイヤー
 - 2.2.5 ハード
 - 2.2.6 課題
 - 2.2.7 市場成長性

- 2.3 害獣対策
 - 2.3.1 現況
 - 2.3.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.3.3 ビジネスモデル
 - 2.3.4 主なプレイヤー
 - 2.3.5 ハードについて
 - 2.3.6 課題
 - 2.3.7 市場成長性
- 2.4 水産業
 - 2.4.1 現況
 - 2.4.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.4.3 ビジネスモデル
 - 2.4.4 主なプレイヤー
 - 2.4.5 ハードについて
 - 2.4.6 課題
 - 2.4.7 市場成長性
- 2.5 林業
 - 2.5.1 現況
 - 2.5.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.5.3 ビジネスモデル
 - 2.5.4 主なプレイヤー
 - 2.5.5 ハードについて
 - 2.5.6 課題
 - 2.5.7 市場成長性
- 2.6 農地内搬送
 - 2.6.1 現況
 - 2.6.2 ドローン活用のメリット・特長
 - 2.6.3 ビジネスモデル
 - 2.6.4 課題
- 第3章 国内企業の動向
 - 3.1 ハードウェア
 - 3.1.1 ヤマハ発動機
 - 3.1.2 DJI
 - 3.1.3 TEAD
 - 3.2 サービス提供企業
 - 3.2.1 オプティム
 - 3.2.2 ファームアイ
 - 3.2.3 ドローンジャパン
 - 3.2.4 ナイルワークス
 - 3.2.5 スカイマティクス
 - 3.2.6 FullDepth

第4章	海外企業の動向
4.1	Micasense
4.2	Resson
4.3	PrecisionHawk
4.4	Mavrx
4.5	Delair
4.6	Slantrange
4.7	VineView
4.8	American Robotics
4.9	Sensilize
4.1	Saildrone
4.11	FLIR
4.12	BlueRobotics
4.13	QYSEA (Qiyuan Technology)